

02 : 「倉敷市職員」という選択、そして、その後の仕事について



市民生活部市民課

赤澤 麻瑠

【平成23年度採用】

<職種> 事務
<経歴> 平成23年4月 市民生活部市民課

■地域に密着した仕事がしたい

大学は教育関係の学部で、教員を目指していたんですが、「学校と地域をつなぐ手助けができるような仕事がしたい」と思うようになり、市職員になることを決めました。きっかけは、大学2～3年の時に参加したボランティア活動です。幅広い年代の方と関わりながら、子供達と一緒に自然体験の活動をすることで、地域と連携して教育活動に取組むことへの魅力を感じました。市役所がその活動を支援してくれていたこともあって「自分も市職員になって、地域に密着した仕事がしたい」と思うようになりました。

実は、私はそれまで倉敷市に住んだことはなかったのですが、倉敷の文化、歴史的まちなみ、豊かな自然環境など、まちの雰囲気から憧れていて、倉敷のまちづくりに携わりたいと思うようになったことが、倉敷市の職員を志したきっかけです。

■市民サービスの最前線で

最初に配属部署を聞いたときは、自分がやりたいと思っていた分野ではなかったので、正直戸惑いましたが、実際に市民課の仕事してみると、業務の幅が広く、色々なカタチで市民の方の生活と関わっていることがわかりました。市民課は、住民票や戸籍などを発行する市民サービスの最前線で、毎日多くの方が訪れます。倉敷市役所では、市民サービス向上を目指して「お客様の待ち時間をどれだけ短くできるか」「わかりやすくご案内できるか」というCS活動に取り組んでいます。「行政=サービス」、「市民=顧客」という視点でのCS活動は、大変なことも多いですが、職員同士でアイデアを出し合い、実践していくのはやりがいがあります。

■チームワークの良い職場

今年の3月に、全国的な住民基本台帳ネットワークシステムに障害がおきてしまい、その時は大変でした。システムに障害がおこった場合は、まず、どの申請ができないのかを把握し、関係部署に周知しなければ、さらに影響が広がってしまいますので、迅速かつ的確な判断と対応が必要とされます。復旧作業としては、ホームページを利用した市民の方への周知、関係部署への対応、システムの委託業者との打ち合わせなどがありましたが、職場全体で一丸となって取り組んだ結果、無事復旧することができました。

この経験から、緊急時には、組織としてチームワークを発揮することの重要性を感じるとともに、今の職場内のチームワークの良さを改めて感じました。

■自己啓発できる職場

採用当初は、何もわからず不安でいっぱいでしたが、市民課は配属1年目の職員に対して、職場内の研修体制が整っていて、基本知識はその研修で学ぶことができました。また、業務でわからないことは、上司や先輩に尋ねやすい雰囲気だったため、採用から1か月たった頃には不安もなくなり、今では毎日が充実し、楽しみながら仕事できています。

また、倉敷市役所には自己啓発できる環境、機会が整っています。当初、私は法律の知識に不安があったため、1年目に地方自治法の研修に参加し、知識の習得に努めました。さらに、県外で様々な研修を受講する機会も充実しているので、就職後も学びたい人、自分を成長させたい人に、倉敷市はおすすめです。

ここにも倉敷市役所 国内屈指の「水島コンビナート」。こんな部署が関わっています。



「産業振興、水島港競争力強化」……商工課

「岡山県と連携した港湾管理」……土木課

「環境監視・対策」……環境政策課

「コンビナート災害」……消防署